



**各事業所やフロアーに掲示**

**永 寿 会**

## 虹の通信 第27号

2017年 9月15日

準職員「リン」のこと ―アニマルセラピー業務を尽くし終えて―

法人の本部が所在する「かりん」(藤沢)には、約5年半にわたって、準職員「リン」という猫が過ごしており、大変人懐こく、人を嫌わない性格(猫格?)で施設にとってはかけがえのない存在でした。しかし、先日9日13時30分、親しく接していた職員の懸命な介護の効無く命を終えました。

福祉の職場には営業成績等のノルマはありませんが、精神労働、感情労働の現場ですので、ストレスや人間関係で課題が多く存在します。その中で準職員「リン」の存在は、業務中の職員の横で仕事ぶりを見ていたり、朝礼にちょこんと座り参加したりして、一服の涼風の元となっていました。また、ご利用者やご家族からも可愛がられて、ほほえましい光景も見られて、「飼って良かった」と意を強く感じ、心から「お疲れ様でした。有難う。」と感謝するところです。こうしたことから、人によるケアでは踏み込めないアニマルセラピーの領域があることが良くわかりました。

雄のアメリカンショートヘアーの血筋も見られる茶系の猫で、平成24年4月中旬に施設に迷い込んだため、保護をし、保健所や警察に届けて元の飼い主を捜しましたが、現れませんでした。保健所からの依頼もあり、法人として飼うと決め、準職員「リン」として辞令を出して組織の一員となりました。どこかで飼育されていたと思われ、直ぐに業務(?)を見事にこなし始めました。施設内から外に排泄に出る場合は、職員通用口で待っており、開けてもらって外に出、里山を散策した後、自動ドアの玄関から入って居場所に落ち着くという聡明な猫でした。また定期的に動物病院でチェックを受けてご利用者等には影響がないようにしておりました。冬場は宿直室の中に入り当直員と寝て、湯たんぽの役割もしたようでした。

一年半ほど前から、体重が落ち始め、受診すると肺に腫瘍がある可能性が高いといわれ、注意をしておりましたが、8月下旬から状態が悪化し、獣医師の見解では室内猫に比較すると寿命は短くなるとの診断で、約10歳ぐらだから寿命ではと言われ、覚悟をしておりましたが、職員に見守られ、一生を終えました。

施設や法人の安寧を願い、邪鬼を追払う「衛士」として死後も存在してほしいという思いから、亡骸は施設入り口の植樹帯に土葬で埋葬しました。墓碑も立てる予定です。

以 上